

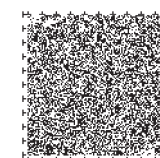
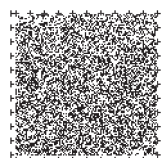
01

地域 | パートナーシップ・文化・コミュニティ

地域の自然や風習に親しみ コミュニティの輪を感じながら 子育ても文化も支え合う未来

[活動紹介]

- めいわ大盆踊りまつり&産学官民連携夜間防災訓練 |
イオンモール明和(三重県多気郡明和町)
- 子育て支援拠点施設「ときめつく」 | イオンモール土岐(岐阜県土岐市)
- 盛岡大学・盛岡大学短期大学部との協働取り組み | イオンモール盛岡(岩手県盛岡市)
- 阿波踊り特別公演 | イオンモール徳島(徳島県徳島市)
- イオンモール白山自然学校 | イオンモール白山(石川県白山市)



めいわ大盆踊りまつり&

産学官民連携夜間防災訓練

イオンモール
まちのコミュニティ
Regional community mall

伝統を楽しみ防災に目を向けながら
まちという大きなコミュニティを強くする。

どんなプロジェクト？

明和町、明和町消防団、明和町社会福祉協議会、三重県立明野高等学校などと協働し、「まつり」と「防災訓練」を同日に実施しました。



めいわ大盆踊りまつり

地域に伝わる「明和音頭」を踊りました。町長や自治会長も参加、夜まで盛り上がりました。

ここがユニーク！

地域伝統の盆踊りで一体感を醸成し、その集客力を活かして、若い世代の防災意識向上の機会につなげました。

開催施設：イオンモール明和

オープン以来、地域の皆さまが「明和町は一つの大きなコミュニティ」と感じられる地域づくりを、地域の皆さまとともに進めていくことを大切にしています。

基本商圏：車25分圏

約14万世帯 約30万人

出店店舗数：約82店舗(専門店舗数)

敷地面積：約140,000㎡

駐車場台数：約3,100台

オープン日：2001年7月21日



開催地域：三重県多気郡明和町

人口22,000人。伊勢湾に面した、なだらかに広がる伊勢平野に位置し、農・水産業を中心に発展。住みたい、住み続けたい、豊かなところを育む、歴史・文化のまち明和を将来像として「みんなでつくるまちづくり」を基本理念としています。



イオンモール明和
オペレーションマネージャー
牛谷 昌弘

実行委員会
委員長
高橋 真衣 さま

明和町 防災安全課
課長
荒木 隆伯 さま

イオンモール明和
オペレーション担当
大石 里加

明和町の子どもたちに
盆踊りを体験させてあげたい

荒木さん：防災安全課では、防災、防犯、交通安全、公共交通、自治会について所管しています。特に明和町には津波被害が想定される沿岸地域があるので、町全体で防災・減災力の向上に力を入れています。ですが、防災訓練の参加者が少なくなってきたという課題を感じていました。そんな時に、高橋さんが前例のない企画を持ち込んでくれてまして。

高橋さん：私は明和町が地元で、たこ焼き屋をしながらボランティア団体「ココツナ〜Share Hearts〜」の代表を務めています。明和町には伊勢神宮とも関わりの深い伝統行事「斎王まつり」があり、年に一度開催されるこのお祭りには町内外か

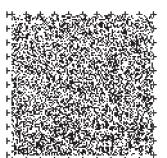
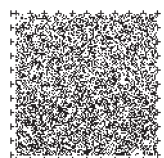
ら約3万人もの人々が訪れます。伝統文化を通じて地域が一つになっている町とも言えるはずなんです。でも、そんな町に育ったはずの自分の子どもたちが「盆踊り」を知らないし踊ったこともない。それに気づいて「これはなんとかしないと」思ったのがこの「めいわ大盆踊りまつり」の企画の始まりです。

牛谷：きっかけは、母親としてご自分のお子さんたちに夏の盆踊りを体験させたいという思いだったんですね。

高橋さん：まず仲間5人と実行委員会をつくりました。さらにその中の1人から「盆踊りに防災イベントをプラスしたら、若い世代も集客できて防災の大切さを伝えられるんじゃないか」というアイデアが出てきて。「いいね、いいね！」となり明和町の

防災安全課に企画を持ちこみました。

荒木さん：最初に聞いた時、とても面白いなと思いましたね。お祭りと組み合わせることで、緑日の出店ブースで楽しみながら防災体験ができる。さらに、夜間の防災訓練の実施にも課題を感じていましたので、盆踊りと組み合わせることでそれも実行に移せる。防災訓練に積極的に参加して取り組んでもらう機会としては最適なアイデアだと思いました。ただ一方で、そもそも盆踊りにそんなに人が集まるのか!?という不安感も(笑)。



明和町 × めいわ大盆踊りまつり&産学官民連携夜間防災訓練実行委員会 × イオンモール明和

イオンモールで盆踊り!?
試行錯誤した4ヶ月間

高橋さん:幅広い世代の皆さんが参加しやすく、ともに明和町の伝統や文化を肌で感じ、新たな交流が生まれるようなイベントにしたいと場所を探していたんです。たまたま知り合いを通じてイオンモールさんに企画が伝わり「OK」と。「えっ、本当にイオンモールで開催できるの?」と驚きましたね(笑)。企画自体に自信はあったんですが、まさか企業であるイオンモールが地元の行事に協力してくれるとは思っていなかったんです。

荒木さん:私も同じ気持ちでしたね。イベントなどでスペースをお借りすることはありましたが、まさかここまで地域と向き合ってくれるのかって。

牛谷:私たちは明和町と防災協定を結んでいて合同避難訓練なども実施してきたので、本当に素晴らしい企画だなと感じました。

荒木さん:5月に産学官民で「めいわ大盆踊りまつり&産学官民連携夜間防災訓練実行委員会」を立ち上げて、8月18日の開催に向けて準備を進めましたね。防災の方は、消防署OBの方の意見も聞きながら具体化していきました。

牛谷:バランスが難しかったですよね。

防災意識は高めてほしいけれど、参加のハードルは高くしなかったのが、みんながやりたいことを持ち寄って、最終的に形にしていって感じです。

荒木さん:コンセプトが「楽しくやろう」でしたからね!

牛谷:人が来ないかもしれないという最初の不安が、日が迫るにつれて逆の焦りに。これはひょっとして大イベントになるかもしれないぞと。町民の方と話すと、すぐに祭りの話になるという(笑)。安全に開催することが絶対なので、万全を期して警備体制も見直しました。

4,000名が来場!
盆踊りと訓練を通じて
広がった地域の輪

牛谷:そして当日、4,000名の方に来場いただきました!こんなに多くの方が楽しみにしてくれていたんだと感慨深かったです。地元消防団による消火器を使ったストラックアウトや社会福祉協議会の防災クイズとダンボール迷路などの防災ブースにも500名近い人が立ち寄り、あわせて実施した避難所体験訓練には約50名の地域の方が参加してくれました。

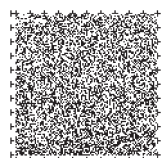
荒木さん:イオンモールの屋上駐車場は、津波緊急避難場所に指定しています。

夜間にスロープを上りながら「停電したら途中の道は真っ暗かもしれない」「それやったら懐中電灯がいるな」といった声がありましたね。災害はいつ起こるか分かりませんから、意義のある訓練ができました。



大石:イオンモールの専門店もブース出店というかたちでお祭りに参加していただき、想像以上の地域の盛り上がり肌で感じられたと喜んでいただけました。私たちイオンモールとしても、専門店の皆さんが普段から地域ともっとつながっていききたいという思いを持ってらっしゃることを知るきっかけになりました。今後は専門店の皆さんとも一緒に取り組める企画で、地域との橋渡しの役割を担えるのではないかと感じましたね。それから「働き方」という観点でも、明和町が地元ではないスタッフの方々も、自分が毎日働いている明和町という場所や住民の人柄をより深く理解するきっかけになったようで、仕事への意識に変化があったみたいです。

高橋さん:すごくうれしいですね! 明和町の住民だけでなく、明和町で働く町外の人たちにも意義のあるお祭りになっていたなら。当日の盆踊りでは「明和音頭」を鬼リビート(笑)。明和音頭保存会の皆さんには「暑いので最初の1時間だけで大丈夫ですよ」とお伝えしていたのですが、ずっと一緒に踊ってくださって、世代を超えたつながりを感じながら大きな踊りの輪が見られて大満足です。



明和町 × めいわ大盆踊りまつり&産学官民連携夜間防災訓練実行委員会 × イオンモール明和

小学校の統廃合が進む中
子どもたちに「地元」を
残してあげたい

高橋さん:この地域では、小学校の統廃と校区の再編が進み、2023年に1校が閉校し2026年3月末までにさらにイオンモールがあるエリアを含む3校が閉校します。明和町には元々6つの小学校区があったのですが、今そこに通う子どもたちは、その地区をもう地元と呼べなくなってしまうかもしれない。だから子どもたちの地元愛を育むという意味でも、今この場所で開催できて本当良かったなと思っています。

荒木さん:明和町と一口に言っても沿岸部と内陸部などそれぞれの地区で特徴がありますから。小学校が統廃合されても、自分が生まれ育った地区に誇りを持ってほしいという思いがあります。

高橋さん:そんな思いもあって、お祭りの当日は「明和音頭を1回踊るごとに地区シールが1枚貰える」という企画を実施しました。それを「めいわ大盆踊りまつりのオリジナルうちわ」に貼って、シールが6地区分すべて集まったら、豪華景品が当たる抽選会に参加できる!という呼びかけをしたら、たくさん子どもたちが参加してくれました。

1回だけで終わらせない!
イベント翌日には次回の
準備が始動

荒木さん:子どもたちが明和町という地域の成り立ちを知り、世代を超えて住民たちと接点を持ちつながっていく。そのことが今回の盆踊りまつりの大きな成果だと思います。さらに防災安全という観点でも、多くの参加者に防災の啓発ができたことがありがたく、防災関連の会議でも「夜間訓練」について取り上げられるなどさまざまな波及効果がありました。「地域のためにできることは?」という熱い思いが大きな渦となり、結果につながったことがすごいなと思います。今回だけで終わらせたくないですね。

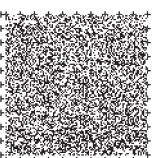
高橋さん:私の中ではイベントの翌日から始まっています!

牛谷:「2025年は、何月何日でいいですか」とすぐにメールをいただいて(笑)。今回、

高橋さんの「やりたい!」という信念をきっかけに始動しましたが、ほかの地域行事などでも中心的な役割を担う高橋さんの姿を目にしてきたので安心感が大きかったです。コミュニティの希薄化と言われる時代ですが、イベントを通じて明和町の絆の深さを実感することができました。今回、私たちも明和町のキーパーソンの皆さまと新たなつながりを育むことができましたので、より一層、地域活動で一緒にいきたいと考えています。

荒木さん:イオンモールは、明和町で一番人が集まる場所であり、地域のランドマーク。今回、地域への思いを知ることができたので、職場でも「イオンモールさんは、ここまでやってくれるんだよ!」と広めていきますね。
高橋さん:私も「イオンモールは明和町の大都会」と思いながら大きくなりましたから(笑)。真夏の開催なので熱中症対策として「無理せずイオンモールで涼んでください」と言えたのも安全運営の面でありがたかったです。

大石:今回、地域と連携しながら一つのことを成し遂げていく過程が勉強になりました。参加した専門店の方の喜びの声も聞くことができましたので、イオンモール社員だけでなく専門店の方と地域のつながりをつくるような活動もしていきたいです。



子育て支援拠点施設

「ときめっく」

イオンモール
まちのコミュニティ
Regional community mall

どんなプロジェクト？

子育て支援充実の実現に向けて、土岐市、NPO 法人、イオンモールが一体となり、イオンモール土岐内で子育て支援拠点施設「ときめっく」を運営。岐阜県内初となる当施設は年間20,000人の方にご利用いただいています。

子育てする人たちを孤独にしない。
支える人を支える場所をつくる。



ときめっく

親子が気軽に集える交流や遊びの場。親子で読み聞かせや読書ができる「えほんコーナー」や小さい子や赤ちゃんが遊べる「あそびのひろば」があり、専門スタッフによる子育て相談や子育て情報も発信しています。



開催地域：岐阜県土岐市

「美濃焼の街」として発展。高速道路網の結節点として大型商業施設や企業の進出が続き、交流人口が大きく増加。2025年に市制70周年を迎え「人と自然と土が織りなす交流文化都市」の将来像に向けて幸せを実感できるまちづくりを行っています。

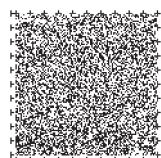
ここがユニーク！

ときめっく運営のほかに、イベント「絵本どうぞの会」や「ファミリーベース」を開催。2024年10月に開催した土岐市子育て応援イベント「ファミリーベース2024」には、1日でおおよそ6,000名の方に参加いただきました。

開催施設：イオンモール土岐

土岐南多治見 IC から北へ2kmと市内外からのアクセス性が良好。テラス席を設けた芝生エリア、温浴施設や大型エンターテインメント施設を設け「何度も訪れたい」新たなにぎわい拠点をめざしています。

基本商圏：車30分圏 10～12km圏内 約11万世帯 約35万人
出店店舗数：約140店舗(専門店舗数)
敷地面積：約203,000㎡
駐車場台数：約3,600台
オープン日：2022年10月7日



土岐市 × 特定非営利活動法人 Mama's Café × イオンモール土岐



特定非営利活動法人Mama's Café
理事長
山本 博子 さま

土岐市 健康福祉部
こども家庭課長 こども家庭センター長
辻野 まどか さま

イオンモール土岐
営業担当
鈴木 颯太

市に届いた保護者の声
きっかけで誕生
モール内の多機能型子育て
支援拠点施設

辻野さん：土岐市では少子高齢化が急速に進み、特に若い世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくりが喫緊の課題です。こども家庭課では、土岐市に暮らす子どもとその保護者の方が「土岐市に生まれて良かった」「土岐市で子育てをして良かった」と思ってもらえる子育て支援に取り組んでいます。

鈴木：私たちはモール開業にあたり、そのような課題に対してイベントなどを通じた地域と連携した子育て支援を土岐市に提案しました。すると、一時的なものではなく「モール内に通年利用できる多機能型子育て支援拠点施設を設置できないか」と。さらに打ち合わせを重ね、土岐市との地域連携事業として了承を得て、子育て支援拠点施設「ときめっく」をモール内にオープンしました。
辻野さん：これは、市の子育て講座や市民意識調査で「土日に行ける屋内の子育て施設が欲しい」「子育てに悩んだ時に話せる場所が欲しい」「お買い物ついでに子どもを遊ばせたい」といった保護者の方のお

声がきっかけになっています。集客力があり好立地のイオンモールなら、ぴったりだなと感じました。

山本さん：そして、Mama's Caféが運営を受託しました。大型商業施設内に多機能型子育て支援拠点施設を設けるのは県内初ということで、大きな期待を感じながらのスタートでしたね！

辻野さん：庁内で了承を得るまでには苦労もありました(笑)。ですが、プレオープンから大変多くの方に来場いただけて、ニーズの大きさを実感しました。

「ファミサポ」事業を展開し、
子育て支援のマッチングを叶える

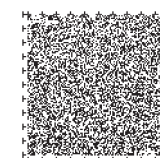
辻野さん：「ときめっく」は、子育て中の親子が集い交流できて育児相談もできる場、市として親子のニーズに対応した支援サービスにつながる場。さらにファミリー・サポートセンター事業と呼ばれる、地域における育児の助け合いをサポートする場としての役割があります。

鈴木：ファミリー・サポートセンター事業は、育児の支援を受けたい人と支援をしたい人をマッチングするというもの。Mama's Caféさんが専門とされていますね。

山本さん：はい。通称ファミサポは、こども家庭庁の支援事業です。996市町村(2024年度)で実施されています。はじめは市町村が直営で行っていたのですが、支援したい人を増やす難しさに直面し、私たちのような行動力を強みとするNPOなどに委託するケースが増えているようです。「ときめっく」では、利用方法の説明や会員登録ができる体制を整え、着実に会員数を増やしています。



共創パートナー
特定非営利活動法人 Mama's Café
岐阜県多治見市を拠点とし「子育て」をテーマにしたファミリーサポート事業やカフェ事業、イベント事業などを展開。土岐市から受託し、2022年10月から「ときめっく」を運営。



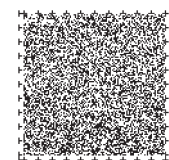


親子を「家庭の一步外に出す」 さまざまなイベントによる動機づくり

山本さん:私が大事にしているのは、親子を「家庭の一步外に出す」ということ。それが保護者の方を救い、虐待防止の一步になると思うのです。例えば、乳児を育てるママを想像してみてください。大きなバッグを抱えて、大泣きするお子さんを抱っこして。「やっぱり外出はやめようかな……」と自宅にこもり孤独感が生まれる。だから、イオンモールはすごく良いと思います。



行く動機が一つだけだと外出が大変で諦めてしまうけれど「美味しいものを食べよう」「食品を買おう」「ベビー服を見よう」「雑貨屋さんをチェックしよう」というように複数あれば、行こうと思いがやすいですね。さらに、私たちの「寝相アート撮影会」や「お誕生日会イベント」といったさまざまなイベントによって動機を増やしたいです。中でも「ファミリーベース2024」は、最大のイベントになりました。より多くの地域の



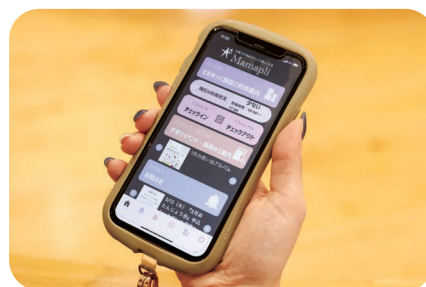
方に関わっていただくために、鈴木さんと一緒に地元の企業や学校にお声がけをしたり、モール内の専門店でコラボを提案したり。結果的に100以上のブースが並び、モール全体に一体感が生まれました。

鈴木:私も、150ほどの出展者にご挨拶に伺いました。それをきっかけに地元の企業からダイレクトに共創のご相談をいただくことも。もちろん「出展してよかったよ!」というお声もいただいています。

辻野さん:土岐市とイオンモール土岐が初めて共催イベントとして実施し、大変大きな反響がありました。参加者アンケートでは「また開催して欲しい」「子どもも親も楽しめた」などの声が集まりました。行政ブースも出展し「子育てに悩みを抱えている保護者と多く対話ができた」「新病院の周知ができた」など、市の子育て支援サービスを知っていただく、保護者の方のニーズを聞かせていただく良い機会となりました。

相談の入り口となり サービスにつながる 出口となるように

山本さん:「ときめっく」は、新しい「親子の居場所」です。この地で子育てをすることに誇りを感じていただける支援をめざし、2025年は「子育て支援者育成研修」をイオンホールで行います。支えられた人が、今度は支える側に。そんな循環がうまれたらと願っています。また、利用者との接点として私たちは独自のアプリも開発しています。「ときめっく」をきっかけに子育てママ・パパたちを多面的に支援し



Mamapli:「親子ひろばときめっく」の
混雑状況やイベント情報が確認できるアプリ



ていきたいと考えています。

辻野さん:「ときめっく」を通じて、誰にも相談できず困っている方や、同世代の子を持つ親とのつながりを求めている方が想像以上に多いことに気づかされました。イオンモールという子育て世帯が日常的に訪れる場所だからこそ、相談の「入り口」となり、専門家が必要に応じて支援サービスにつなげる「出口」の役割が果たせると考えています。2025年4月には「イオンシネマ土岐」もオープンしますよね。若い人たちが映画デートをして、結婚して土岐市に住みたいとなってくれたら……。



鈴木:そうですね! イオンモールが近くにある便利さや楽しさ、防災の観点での安心感が、土岐市に暮らすきっかけの一つになればうれしいです。「ときめっく」は、年間20,000人の方にご利用いただくまでになりました。これからも皆さんと地域への思いを共有し、さまざまな取り組みをしていきたいと思っています。



地域に関連するプロジェクト

さまざまな地域での取り組みの一部をご紹介します。

PROJECT | CASE 03

盛岡大学・盛岡大学短期大学部との 協働取り組み

イオンモール盛岡 | 岩手県盛岡市

盛岡の将来を担う地元の学生たち 地域共創パートナーとともに活動。

2023年に盛岡大学・盛岡大学短期大学部と産学協定を締結。学生が主体となり、館内でオープンキャンパスや文化祭、盛岡伝統さんさ踊り、部活の発表が行われました。継続して、地域・大学の魅力を地域の皆さまにお届けするとともに「若者が躍動する拠点の創造」をめざしていきます。



PROJECT | CASE 05

イオンモール白山自然学校

イオンモール白山 | 石川県白山市



ふれあい体験を通じて地域への愛着を育む。

市内全域がユネスコ世界ジオパークに認定されている白山市。地域に暮らす親子の皆さまに、地域への理解を深めながら愛着を育んでもらう機会として、白山の自然から採れた材料を使ったワークショップと、白山の自然を楽しみに行くバスツアーを開催しました。



PROJECT | CASE 04

阿波踊り特別公演

イオンモール徳島 | 徳島県徳島市

伝統芸能を気軽に楽しんでもいただき 地域の魅力の再発見につなげる。

お買い物の合間に「阿波踊り」を気軽に楽しんでもいただくために、徳島県阿波踊り協会の協力のもと、館内で「阿波踊り」を実施。4日間で約4,400人の方が観覧されました。最後には地域の皆さまや観光客の皆さまが踊りの輪に加わり、踊り子とともに高揚感や楽しさを体感いただきました。

